

MIC

情報通信 vol.25

(2009年7月発行)

MOODY
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・
サーティフィケーション株式会社

大阪事務所

〒532-0003 大阪府淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ
(<http://www.moodygroup.co.jp>)でご覧頂けます。

CONTENTS

1 ISO9001:2008追補改正版へ の変更状況報告

2 特集

3 「福祉・医療分野のISO」

リスク管理から考えるISOシステム
事例紹介(医療法人盈進会 岸和田盈進会
病院)

4 MIC ニュース

顧客実績6000件突破
情報セキュリティ市場調査報告書が公表
2009年国際認定推進の日
Q & A

5 審査の現場から

お客様紹介
(安原プラミクス株式会社)

6 連載よみもの

MICリレーエッセイ
「審査移動中のできごと」
(審査員 根岸 明)
環境よみもの
「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り

「活きた着物作りのために」
(株式会社勝矢和裁)
「幸せ(しあわせ)と経営の元は愛」
(あさひ税理士法人)

8 研修コースのご案内

ちょっといっぱい
コースのご紹介/受講生からのお便り

ISO9001:2008追補改正版への変更状況報告

QMS/EMSスキームマネージャー 補佐
白川 佳典

ISO9001:2008が、昨年11月15日に発行され早8ヶ月が過ぎます。これまでの2000年版に対し新規の要求事項はなく、規格の移行にあたっては、ISO本部も市場への混乱、影響が出来る限り起こらないように配慮を行っています。弊社におきましても、移行説明のダイレクトメール、無料移行説明会、弊社ホームページ、電話でのお問い合わせ等を通し、既存及び新規のお客様にスムーズな移行を実施して頂くための照会回答をさせて頂いています。特に無料説明会は、2月10日弊社東京本社での開催を皮切りに、4月まで全国19都市にて計25回開催し、総計1500名を超える多くのお客様に参加して頂きました。至らない説明もあったかと思われそうですが、皆様の関心の高さにあらためてMICスタッフ全員深謝する次第でした。なお弊社ホームページにこれら移行説明会にて使用しました、移行に関するスケジュール、移行に関する作業ポイント、規格の変更点などの資料を掲載しております。開催回数及び開催場所等の都合によりご参加頂けなかったお客様へはお詫びするとともに、こちらの資料をご参考にして頂ければ幸いです。その他、規格書の購入先、移行の手順、移行のタイミングなどについて、お電話でも多数のお問い合わせを頂いています。通常業務の中では報告書上などでしか存知上げないお客様とコミュニケーションが図れることは、移行の説明を超えて新鮮な経験をさせて頂いています。



弊社にて推奨しております2000年版及び2008年版審査の選択期間(2009年8月31日まで)では、昨年の2008年版規格の正式発行以来、時間経過とともに2008年版審査を希望されるお客様が増えています。当初は2008年版規格に関する情報や移行の準備時間の不足などにより2008年版審査の受審希望は非常に限られていましたが、7月及び8月では審査を受審されるお客様の約4割が2008年版審査を選択しております。

選択期間の終了に伴いより多くのご質問が寄せられると思われそうですが、スタッフ一同円滑な移行を目標に対応をさせて頂きますので、よろしくお願いいたします。

福祉・医療分野のISOを考える

- 効果的活用でレベルアップを -

福祉・医療業界では現在、ISO認証取得の需要が急増しています。今号では、注目度が高まっている福祉・医療分野に焦点をあて、リスク管理の視点からのISOマネジメントシステムと、更に取得事例として、今年3月にISO14001の認証登録をされた医療法人盈進会岸和田盈進会病院様をご紹介致します。



特集

7 リスク管理から考える福祉・医療分野のISOシステム

MIC主任審査員 美濃 英雄

はじめに

福祉・医療分野でのISOマネジメントシステムの導入が増加しており、MICでも、約50の社会福祉法人・施設、約20の医療関連施設のお客様に認証登録頂いています。介護保険導入や規制緩和の影響で、民間企業が参入を開始するなど、福祉業界を取り巻く環境も大きく変化し、また、医療分野でも、患者受入れや医療事故など、経営体質改善やサービス向上が強く求められるようになってきました。有料老人ホームを例にあげると、予想される経営リスクは以下のようなものが考えられます。

- ・ 費用の未払い
- ・ 介護スタッフの確保・教育
- ・ 地震・火災対策
- ・ 入居者の転倒による骨折、けが
- ・ 入居者間の喧嘩・トラブル
- ・ 昨今流行の新型インフルエンザなどの感染症対策

福祉業界では、このようなトラブルやリスク管理に対する意識が立ち遅れていた部分がありますが、危機管理の意識を持たなければ、長期安定的な経営は望めません。

リスクマネジメントシステムの導入は経営の基本

組織が取り組むべき課題は多岐に亘っており、全ての課題を効率的・効果的に対応・解決していくことは容易ではありません。そこで切り札となるのが、リスク管理です。リスクマネジメントシステムの導入は、これからの経営の基本と言えるでしょう。

ISOマネジメントシステムは、品質、環境、労働安全を始め様々な規格が発行されていますが、どのシステムもリスクマネジメントに効果的に活用することができます。例えば、今回の福祉・医療サービスに主要なISOマネジメントシステムを当てはめると、右記のようになります。

ISO9001

顧客(入居者/患者及びその家族)の信頼を継続的に改善し、不満や事故を回避し、経営の安定を図っていくマネジメント

ISO14001

使われる資源を節約し、事業の結果から排出される環境に悪影響を及ぼす要因を削減し、周辺からの苦情の削減、無駄の排除、廃棄物の削減等を通して、余分な出費を抑えるマネジメント

ISO27001

入居者/患者及びその家族の個人情報や、組織内の情報の利用を確実に管理して、情報漏洩、データ信頼性保護、情報機器の確実な利用の確保を図り、事業に損失を与えないようにするマネジメント

ISO22000

入居者/患者の食品に係る事故を防止し、安全な食品を提供することにより、事業へ損失を与えないように管理するマネジメント

ISOシステムの導入で、バラつきがちなサービスの標準化、サービスの質の向上、経営改善に加え、リスク管理への効果的な活用をメリットとして挙げられる組織も多くあります。

尚、社会福祉法人指導監査要綱一部改正により、2年に1回と定められている指導監査が、ISO9001取得により4年に1回にできる要件が加わり、昨年4月1日より適用されています。

(参考文献「有料老人ホーム等の事業上のリスク」北形幸信氏著)

美濃 英雄(みの ひでお)

2001年入社。JRCA品質主任審査員、CEAR環境主任審査員、IRCA食品審査員。平均審査日数年間150日。社会福祉学修士。



『地球環境にやさしい病院づくりをめざして』

医療法人 盈進会 岸和田 盈進会病院
理事長 渡邊 美樹

医療法人 盈進会(えいしんかい)理事長の渡邊でございます。当院は、大阪府南部に位置する岸和田市にあり、病床数157床、全職員数250名の小規模ながらも急性期から回復期・慢性期、さらには緩和ケアに至るまで、さまざまな病棟を有する「ケアミックス型」の病院です。

『地球環境にやさしい病院づくりをめざして!』をテーマに、2007年11月、院内にISO事務局としてEMS (Environmental Management System) 委員会を新設し、認証取得への活動を開始しました。

私が経営しておりますワタミグループでは、日本の外食産業として初めてISO14001を取得しており、毎年その規模、範囲を拡大しながら環境活動を推進しております。そして、その想いを今回、医療法人 盈進会 岸和田 盈進会病院にも注ぎ込むことにいたしました。

取得に向けた活動として、まず、各部署から選出された代表委員によって、各部署における業務の洗い出し、環境側面の抽出、インプット・アウトプット分析、環境影響評価表作成、著しい環境側面の登録、法規制調査等を実施し、2008年6月1日『環境方針』を制定、病院全体として取り組むべき重点項目を以下の通り決定しました。

- ・ガス使用量の削減
- ・電気使用量の削減
- ・廃棄物の適切な分別と削減
- ・職員・地域住民への環境教育の普及・啓発の推進

これらの重点項目の意味をよく理解しそれぞれに目的・目標を掲げました。「環境保全活動」は、「誰がやる」ということはまったく重要ではなく、「みなでやる」という思い、職員全員の意識の変化が必要です。だからこそ、当院はなぜ「環境」に取り組むのか、全職員が周りの人に伝えられるように、特に「教育」面を重視し、様々なイベントや研修会等を計画・実施してきました。

審査に向けての準備としては、2008年11月、12月の2度にわたり「内部環境監査」を実施しました。この監査をきっかけに、全職員が「ISO14001環境マネジ

メントシステム」PDCAサイクルのしくみを必死に理解しようとする動きが活発化してきました。全員朝礼や部署ごとのミーティング時、またそれ以外でもスタッフ間で互いに勉強し合いながら活動する姿



は、私の予想を超えたものであり、盈進会における『真の結束力』を改めて実感した次第です。

2009年2月からいよいよISO14001一次審査がスタートし、3月の二次審査を経て、2009年3月17日付でISO14001認証を取得することが出来ました。

そもそも、病院という事業体は、一般製造業に比して環境影響度は極めて低い業種であり、全国的に見ても環境活動を積極的に推進しているところはまだまだ少なく、また、一病院としての環境活動の影響度もごくわずかであります。しかしながら、病院で働くスタッフ一人ひとりが、ますます深刻化する地球環境問題に対して目を向け、意識を持ち、日常生活の中で一人ひとりの行動が変わり、その関わる周りの人々を巻き込むことで結果的に世の中に大きな影響を与えることが出来ると信じています。

私は、常に職員に「現実を変えること」を求めます。つまり、当たり前を当たり前、しかし、徹底してそれをやり抜く時、事実が変わるということです。『地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになる』を根底に、グループ全体として活動を拡大し、レベルアップさせながら継続することにより、我々の活動で地球への負荷を軽減させていきたいと考えます。

これからも一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとっていくことを強く希望します。

<http://www.eishinkaihsp.or.jp/>



顧客実績 6000 件突破

昨年4月の本紙20号にて、契約件数5000件突破のご報告をさせて頂きましたが、その後も多くのお客様の認証登録のお手伝いをさせて頂き、5月末に契約実績総数が6000件に到達致しました。これまでの皆様方のご高配に社員一同心より感謝申し上げます。

ムーディーグループは100年以上に亘り、世界最大の多国籍技術サービス企業の一つとして世界50ヶ国以上で業務を展開して参りました。今年11月で創立15年を迎えるMIC日本法人は、2月に財団法人日本適合性認定協会(JAB)が発表した2008年

末時点でのISOマネジメントシステム認証件数では、ISO9001で第2位、ISO14001で第4位にランクされました。外資系認証機関ではどちらも1位の認証件数になります。

今後も様々な分野の皆様、審査を通してお客様の付加価値を高めるお手伝いをさせて頂くため、更なるサービスの提供に邁進して参りたいと思っております。今後とも変わらぬお引き立てをよろしくお願い申し上げます。

情報セキュリティ市場調査報告書が公表

経済産業省が、2007年度の情報セキュリティ市場報告書を公表しました。報告書によると、国内市場は高い成長率を示し、情報セキュリティ対策を既に実施している企業の割合は85.6%に達しています。内部統制を含むコンプライアンス対応、事業継続計画への関心の高まりなどから、総合的リスク管理としての情報セキュリティ管理の考え方が浸透してきていることの表れだと思われま。また、トラブルの発生状況では、システムトラブル、コンピュータウィルスの発生率が低下した一方で、重要情報の漏洩は3年連続の上昇となっており、情報資産管理

の観点からもリスクマネジメントの必要性は益々高まってくるでしょう。

報告書では、対策を実施している多くの企業がセキュリティ面の向上だけでなく、顧客の評価、経営への貢献も認識しており、継続的な取り組みへの大きな要因になっているとのこと。2005年に国際規格化されたISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)は、セキュリティ体制の確保を目的としています。ご興味ございましたら、お気軽に弊社東京営業部までお問合せください。報告書は、経済産業省のHPでご覧になれます。(http://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/)

2009年国際認定推進の日

6月9日は、IAF(国際認定機関フォーラム)とILAC(国際試験所認定協力機構)が認定の重要性への認知度を高める目的で昨年記念日として定めた国際認定推進の日になります。昨年の国際認定デーには、50カ国以上でイベントやセミナー、キャンペーンなどが大々的に開催され、今年も多くの活動が実施されました。

今年のテーマは『力量』。認定によって、信頼できる第三者の証明性、公平性、そして適合性評価機関間の整合性がもたらされます。国際的に承認され、国際基準を満たした認定の場合、その試験、

検査、認証において、それらの精度と信頼性が与えられることとなりますので、世界市場の発展する中、公正な取引を確保するためにも益々その重要性は高まっていると思われま。最近行われた各国の認定機関の調査でも、認定された事業やサービスの受容度は68%を示しており、これは2002年度比の27%増にあたるそうです。今年も、昨年に引き続き、イベントを通じて更に認定の価値について広く認知されたことを期待したいと思います。詳細はIAFのHPをご参照ください。(http://www.iaf.nu/)

Q&A ?

Q

昨年、他の審査機関からMICに認証機関変更をしました。文書管理について質問です。外部文書について、以前の審査会社では「審査会社から配られた文書は全て外部文書として管理が必要」と言われ、外部文書台帳が3ページになっていました。MICに変更後、現在の管理文書に該当しないものもあり、更新が困難になりました。どこまでの管理が必要なのでしょう？

Answer

規格では、「マネジメントシステムの計画及び運用のために組織が必要と決定した外部からの文書を明確にし、その配付が管理されていることを確実にすること」と定められています。つまり、どれが外部文書であるかを決定するのは組織自身ということです。

文書管理の基本は、業務に必要な文書が適切に使用されることです。業務上必要な文書は、例えば規格類、設計・製造・検査等に適用される基準・関連法規、顧客からの図面、仕様書、取扱説明書やマニュアルなどになりますが、改訂されているはずの基準や仕様書が古い状態で使

用されたり、製造部と設計部で違う版のものが使用されたりといったトラブルを防止し、必要な文書の最新版が、必要な部署で使用されること、明確に識別される状態にあることが重要になります。

配付管理については、最初から多くの文書を管理するよりも、必要最小限な文書を最初に決めて、徐々に増やしていくのもよいと思います。

また、最近では電子文書も多くなってきましたが、電子文書も紙文書と基本的には同じ扱いになります。

安原プラミクス株式会社 様

(ISO9001:2000 認証登録)

安原プラミクス株式会社様は岡山県都窪郡早島町にある複合樹脂の製造メーカーです。1973年(昭和48年)に再生プラスチック業を現在の安原尚代表取締役社長が個人で始められましたが、その更に以前はこの地方特有のい草で畳表やござを生産されていました。現在は、主に汎用プラスチックをベースに様々な機能性を付与した複合樹脂製品の製造・販売をされています。その製品はそこから通気性フィルムをはじめ、多分野の最終製品に形を変えて市場に出ています。

同社はMICで2008年9月にISO9001の認証取得をされました。「当初、『ものづくり』の会社としてはお客様に認められる良質のものを作っていただければ自然にお客様がついてきてくれると思って



整理整頓された工場内

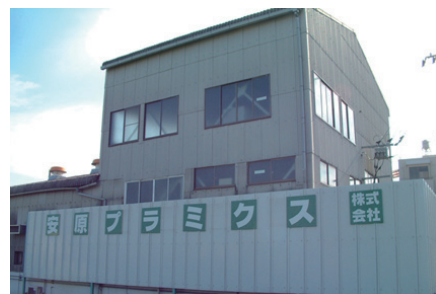
いたが、今の時代はどこもよりよい品質を目指しているので、自分達だけで満足するのではなく、第三者に見てもらうこと

により客観的に評価してもらいたい」と考えるようになったのが、ISO9001取得の理由です。

「地方の零細企業が良質の製品を作っていることをわかってもらうにはこういった第三者認証も一つの手段です。導入に際してはできるだけ、『認証取得のための仕組み』にならないように自分達の業務にあった方法で構築したので、業務に溶け込んだ非常に運用しやすい仕組みになっています。今までも品質にこだわってものづくりをしてきたので、ISO9001を導入して大きく変わったところはありませんが、第三者の目を見て評価してもらうということで刺激にもなり導入してよかったと思います。」とは取締役の久保木様の談です。

同社では、ISO9001取得により製品品質向上の仕組みを運用されていますが、それ以外にも環境に対しての取り組みにも力を入られています。ISO14001はまだ取得されていませんが、経済産業省委託事業である「製品グリーンパフォーマンス高度化推進事業」に参加されており、平成20年度の全国100社のうちの12社に残りました。中国地方では安原プラミクス様のみです。「製品グリーンパフォーマンス高度化推進事業」とは、産業と民生の両部門におけるCO²排出量削減を効率的・効果的に促進し、日本のエコプロダクツ市場の着実な普及拡大を図ることを目的に、産業環境管理協会が経済産業省からの受託により平成18年

度から実施しているものです。同社では、ISO14040及びISO14044の規格に準拠しつつこの事業に取り組まれました。



会社外観

同社がこの事業に参加しようと思われた理由は、「大手がやって当たり前のことを地方の一企業でもやってやろう」という反骨精神から生まれたもので、2008年夏より取り組みを始められました。この取組みには外部からの意見も積極的に取り入れるべく、ISO9001取得を決められた時から一緒に活動されている同じ岡山のコンサルタント様も参加されました。同コンサルタント様は今後も戦略パートナーとして安原プラミクス様の新たな挑戦と一緒に取り組まれるということです。

安原プラミクス様は、企業理念として「地域に貢献できる人とモノをつくる企業を目指す」ことを掲げられています。安原社長は、いいモノを作るにはいい人でなければいけないという考えから、品質のよい製品づくりだけではなく

人づくりにも力を注いでこられました。例えば、パートや派遣社員は雇わず、全員正社員として雇用しています。熟練工を育て会社の技術を



工程からの一コマ

継承するために、社員が安心して働ける環境を整える、という人づくりの基礎を徹底されています。また、会社だけではなく、仕事以外の時間を地域にも貢献できるような人になってもらいたいという安原社長の地域貢献の思いは確実に社員の方に伝わっており受け継がれています。

今後は、製造プロセスだけではなく、ホームページから受注出来る体制の構築など営業プロセスの改良にも注力していかれるということです。地方の一企業でもできる色々な活動を通して業界のリーダーとなるべく今後も様々なことにチャレンジしていかれる予定です。

<http://www.plamics.com/>

MICリレーエッセイ ㉓

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 群馬県みどり市
根岸 明
(ねぎし あきら)



PROFILE

専門分野 ISO9001 - 紙製品、食品、印刷、運送倉庫
経歴 石井会計事務所、管轄管工、飯塚機業、山傳、イッキス、共栄運輸倉庫、桜井紙器製作所、ハーベルハート、アラックス、MIC審査員(現職)

「審査移動中のできごと」

それは、北陸本線を審査で移動中、最後の車掌室が見える所に立っていたときのこと。たまたま見習い車掌さんの実地訓練に出会いました。見習い車掌さんの車掌業務を二人の監督官がチェックしていました。監督官たちは、手にチェックリストのようなものを持ち、見習い車掌さんの作業をチェックして、し点とコメントを書き込んでいたようでした。

教育・訓練は、顧客に満足される製品を継続的に提供するために、要員の力量を必要レベルにすることが組織として求めら

れます。訓練した後に書かれる結果の記録よりも、訓練そのものに使える(ツールとしての)記録、すなわち訓練チェックリストのようなものがあると、教え方によるバラツキを標準化してスピーディーに一人前にすることができると思います。

私は以前運送業にいました。ドライバーは基本的にワンマンで運行しなければ採算が合いませんが、新人ドライバーにいきなり、大事なお得意様を任せられません。このときに訓練チェックリストが大事なツールとなりま

す。これでチェックすると何が不足しているのかが歴然となり、不足する部分を集中的に指導し、一日も早く戦力になって頂くわけです。私は、そんなドライバーの訓練は受けたことがありませんが、緊急時には、冷凍車で積み込みや納品に何度か行き、その度に荷物をつぶしたり、溶かしたり、時間に遅れたりと失敗だらけでした。きちんと訓練を受けたことがなく、やり方もよく分からなかった。そんな失敗談が今の仕事に活かしているのかもしれない。

連載「環境とISO14001」㉓

第23回 「不況を乗り切る」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

今回は前回予告していた「エネルギーと資源のまとめ」を取りやめ、喫緊の課題である「金融恐慌乗り切り策」について述べます。

現在、100年に1度といわれる経済恐慌に多くの企業があえいでいます。この苦境はじっと耐え忍んでいればやがて春(好況)になるのでしょうか? どうも違うようです。今回の不況は金融バブルの崩壊であって、偽りの金融資産を元手に実力以上の買い物をしてきたことが原因で起きた恐慌です。従って、これは完全に元の状態に戻る事はないと見るべきでしょう。好況と不況を繰り返すいわゆる「景気の循環」の一過程ではなく、歴史的な変革期にあることを感じている企業経営者も多いと思います。

消費者の価値観は既に変わってきております。企業経営者も新しいパラダイムの導入が必要です。5000年前の「農業革命」が文明史上の第一革命で、富の蓄積と支配者/被支配者をもたらしたとすると、今始まっている次世代の地球を救う動きは正に第三の革命「環境革命」の始まりであると環境監査研究会の後藤俊彦氏は語っています。グリーンニューディールと言われる政策はそれに沿った方向転換であり、同時に収縮した雇用基盤を補う政策と言えます。

環境配慮製品は今まで以上に求められるでしょう。自動車は個人の嗜好やステータスによって選ばれるのではなく、環境汚染と移動手段と

を考慮した合理性が重視される傾向が出始めています。これからは、レンタカーやカーシェアリング、或いはドライブアンドライド、更には、車を必要としない交通システムやコミュニティーに対する需要が増えてくるように思います。一般商品についても個人の財産としての所有価値に加え、サービスを受ける手段としての位置づけが高まるでしょう。すなわち、「売りきり」ではない「販売+サービス」の形態が増えてくるでしょう。

これを後押しするのは、急速な少子高齢化です。筆者の友人の一人が少子高齢化の進んだ地方で小さな電気店を営んでいますが、高齢者の家で電灯の交換や、電気機器の調整・修理を引き受けることにより安定した収支を得ているとのこと。少子高齢化社会は日本だけの傾向ではなく、中国、中央アジア、シンガポール、タイが少子高齢化に向かうと予想されます。

「環境」と「少子高齢化」は21世紀のパラダイムであり、この分野にこそ新たな需要とビジネスがあります。この不況でちごまっているばかりでは何の解決にもなりません。これまで培った技術力を信じ、みんなでアイデアを出しあうことによって新製品展開や既存製品・サービスの差別化に挑戦しましょう。これにより受注の落ち込みを補い、さらには次の主力製品・サービスに繋げることができるでしょう。

ところで、企業が危機を乗り切って事業を継続するためには、まずは現状のコストを削減してゆかねばなりません。これまで取組んでいた省資

源・省エネルギー活動を見直す必要があります。例えば、操業短縮に伴って総エネルギーが減少したけれども原単位評価で増大したのであれば意味がありません。不況時こそ厳しく限界を見極めることが必要です。次のような点検をしてみましょう。

- 冷却水温維持に冷凍機が必要か(冷水塔だけで対応できないか)
- 電気炉はガス炉に変更できないか
- 原料保管に温度管理が必要か、必要なら限界温度範囲は如何程か
- 照明器具の設置位置は適切か(高すぎないか)
- 設備始動時のならし運転の時間は適切か(長すぎないか)
- 圧縮空気ラインに漏れはないか
- 蒸気・温水ラインの保温は十分か
- 歩留りは上がらないか
- 作業時間が短縮できぬか、生産性の向上は限界か

点検結果が満足できるレベルでなかったら、この際、徹底的に調査して改善策を立て、果敢にトライしてみましょう。

この不況を乗り切るためには、これまでの省資源・省エネルギー活動にメスを入れること、及び、パラダイム変化を読み取って新たなビジネス開拓に果敢に取り組むことが重要です。それは、結局のところ21世紀のビジネスに対する処方箋にもなるわけです。次号ではISO14001に戻って取得済み組織向けの「ISO14001の効果的な運用」について解説します。



お客さまからのお便り



活きた着物作りのために

株式会社勝矢和裁 (ISO9001:2000 認証登録)
代表取締役 勝矢 珠容子



当社は日本の民族衣裳である和服を縫製しています。1983年に和裁学院として創業し、現在は株式会社勝矢和裁として、和服の仕立て及び和裁士の養成を中心に事業を展開しています。毎年新卒を中心に採用し、3年間で国家資格を取得、4年目からはプロ和裁士として自立してもらっています。

技能伝承 伝承者の育成は楽ではありませんが、プロになるという人のみを採用しているため、社内はまとまり活気があります。同じ仕事をして、トップレベルの仕事がしたいという思いで、毎年全国コンクールに出場し、現在までに6名が優勝しました。その他技能五輪、全国大会などの上位入賞者を多数抱え、確かな技術を提供し、お客様から「勝矢さんに任せておけば安心」とのお言葉を頂くまでになりました。

さらにお客様に喜んで頂くため、2006年10月、ISO9001を取得しました。従業員全員参加でのISO構築に取り組み、品質方針に基づいた個人目標を設定、年3回の社長面談によって達成状況のフォローを行っています。また、毎月、幹部を除く全従業員でグループ別に行っているハッピーミーティングは有効なコミュニケーションとして機能し、また改善の機会としても大変役立っています。

全員で何度も話し合い、やっと出来た当社の理念、「私たちは自らの技能に誇りを持ち、お客様の安心と信頼にお応えします。」を朝礼で唱和し、1日をスタートしています。この和裁という仕事が職業として、一般に知られていないのが残念ですが、私達は「日本文化の伝承者」としての使命とプライドを持って、これからも前進したいと考えています。



<http://www.katsuyawasai.co.jp/>

幸福（しあわせ）と経営の元は愛

あさひ税理士法人 (ISO9001:2000、ISO27001:2005認証登録)
代表 宮下 英三



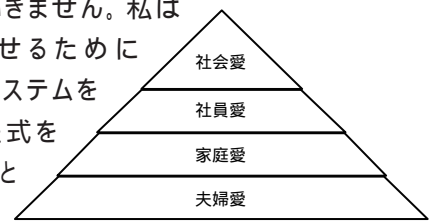
あさひ税理士法人は、富士山の麓、山梨県南都留郡富士河口湖町に所在し、経営理念の「税理士法第一条『税理士の使命』を理念として、融和と団結と誠実のもと、巡回監査・決算業務のより一層の精度の向上を目指し、社員一同誇りを持てる企業

にならんことを誓う」をもとに活動しております。

税理士事務所その他、経営コンサルタントとして約30年間数多くの会社に関わらせて頂きながら、会社を繁栄させる経営ノウハウをまとめた「元気に経営(文芸社)」を執筆、多くの経営者の方に読んで頂きました。その一部を紹介しますと、私は事業を繁栄させるためにはその経営者の「夫婦の愛」が始めの元であり、「幸福と経営の元は愛」だと考えております。

その夫婦の愛が豊かな愛情でお互いに信頼し合えば、家庭も円満となり発展していきます。私はこれを家庭発展力と定義しています。家庭発展力が成長して豊かになれば、会社発展力も成長、それが社会発展力へ、またいずれは社会貢献へと発展していくのであり、つまり「夫婦愛 家庭愛 社員愛 社会愛」へと順次進展させることが、事業を繁栄させる方程式と考えました。

さらに、事業を繁栄させるには「物と心の両面を取り組む経営」が重要であり、それは全職員を巻き込まなければ発展していきません。私はそれらを実現させるためにISOマネジメントシステムを活用し、この方程式を立証していきたいと考えております。



事業を繁栄させるためには夫婦の愛が始まりで始めの元である。

<http://www.mfi.or.jp/asahi/>



ニュース欄でご紹介の「認定推進の日」にちなみ、今回はIAFについて少しご紹介いたします。IAFとは、“The International Accreditation Forum, Inc.”(国際認定機関フォーラム)の略称で、マネジメントシステム審査登録、製品認証などを行う適合性評価機関を中心とする国際的組織で、適合性評価機関の認定等を行っています。1993年に認定機関間の情報交換を目的に発足、1998年にはNPOとして法人化され、現在約60の認定機関メンバー(UKAS、JAB等)を中心に地域グループメンバー、アソシエーションメンバー(各国産業団体等)等で構成されています。

1998年には、IAF加盟17カ国によって、MLA(Multilateral Recognition Arrangement:相互承認協定)が締結されました。相互承認とは、協定に調印した認定機関による認証は、他の認定機関による認証と同等であると認知する仕組みのことで、これによって世界的な相互承認の動きが活発化されました。現在、IAF相互承認グループメンバーは約40認定機関。MICはUKASと一部JABの認定を受けており、UKASもJABもそのIAFのMLA加盟メンバーになりますので、どちらの認証も同等と認められます。現在、ISOマネジメントシステムの相互承認は、QMSとEMSに導入されています。UKAS(英国認定協会)は、当初よりIAFメンバーとして活動し、世界最大級の認定機関になります。グローバル化が進む現代には有効性の高いグローバルな認証システムは不可欠であり、今後も信頼できる認証制度の維持継続により、世界市場の拡大につながるものと思います。

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお勧めです。

● 内部監査員コース 9001/14001/18001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪

【対象者】 品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討しているシステムをより効果的に運用したい効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお勧めです。

● ISO9001 :IRCA認定審査員研修コース (5日間)

● ISO14001 :IRCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】 東京

【対象者】 審査員の中で内部監査を行いたい内部監査グループのリーダーに任命された将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

ISO14001内部監査員コースを受講して

環境内部監査員コース(2009年5月)受講

株式会社さつき エコフレンドリー事業部 松林 元子/石田 誠子

当社は、『環境保全活動が私達の共通の使命』である事を認識し、再生資源の収集運搬、加工販売・産業廃棄物の収集運搬及び中間処理を行い愛知県から広島県までの31ヶ所(府・県・市)の収集運搬許可を取得し、幅広く事業を行っております。

社長は、常に『環境にやさしく・総合リサイクル事業』を掲げ、2006年10月よりISO14001に取り組みを始め、本年よりISOの充実をより深める為、環境管理室を12名に増やしました。私達もISO環境管理室に任命され、今回の内部監査員研修に参加させて頂きました。5月初旬に2回目の維持審査を受けさせて頂いたばかりでしたので、初心者で私達でも内容がよく理解できました。社長をはじめ全社員でISO14001を業務に反映させ、益々環境保全に努めて参りたいと思います。

今回は、新型インフルエンザの大流行の中、受講生全員がマスク着用や手の消毒を行うなどの異例な状況では有りましたが、無事受講をさせて頂きました。有難う御座いました。



ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル4F

TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410
E-mail:mi-certification@moodygroup.co.jp



大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F

TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575
E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp